

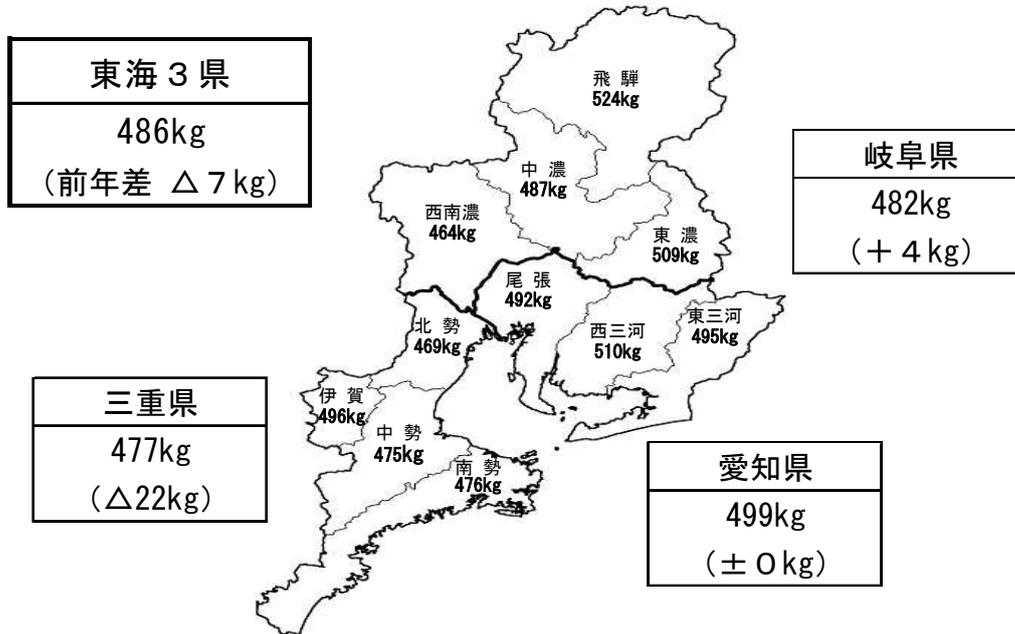
令和元年産水稻の収穫量

－ 水稻の収穫量（主食用）は36万4,100 t －

【調査結果の概要】

- 1 東海3県（岐阜、愛知及び三重）における令和元年産水稻の作付面積（子実用）は7万7,400haで、前年産に比べ200ha減少した。うち主食用作付面積は7万5,000haで、前年産に比べ300ha減少した。
- 2 東海3県の10 a 当たり収量は486kgで、前年産に比べ7 kgの減少となった。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は37万5,900 t で、前年産に比べ6,600 t の減少となった。このうち、主食用の収穫量は36万4,100 t で、前年産に比べ7,100 t の減少となった。
- 4 なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は97となった。

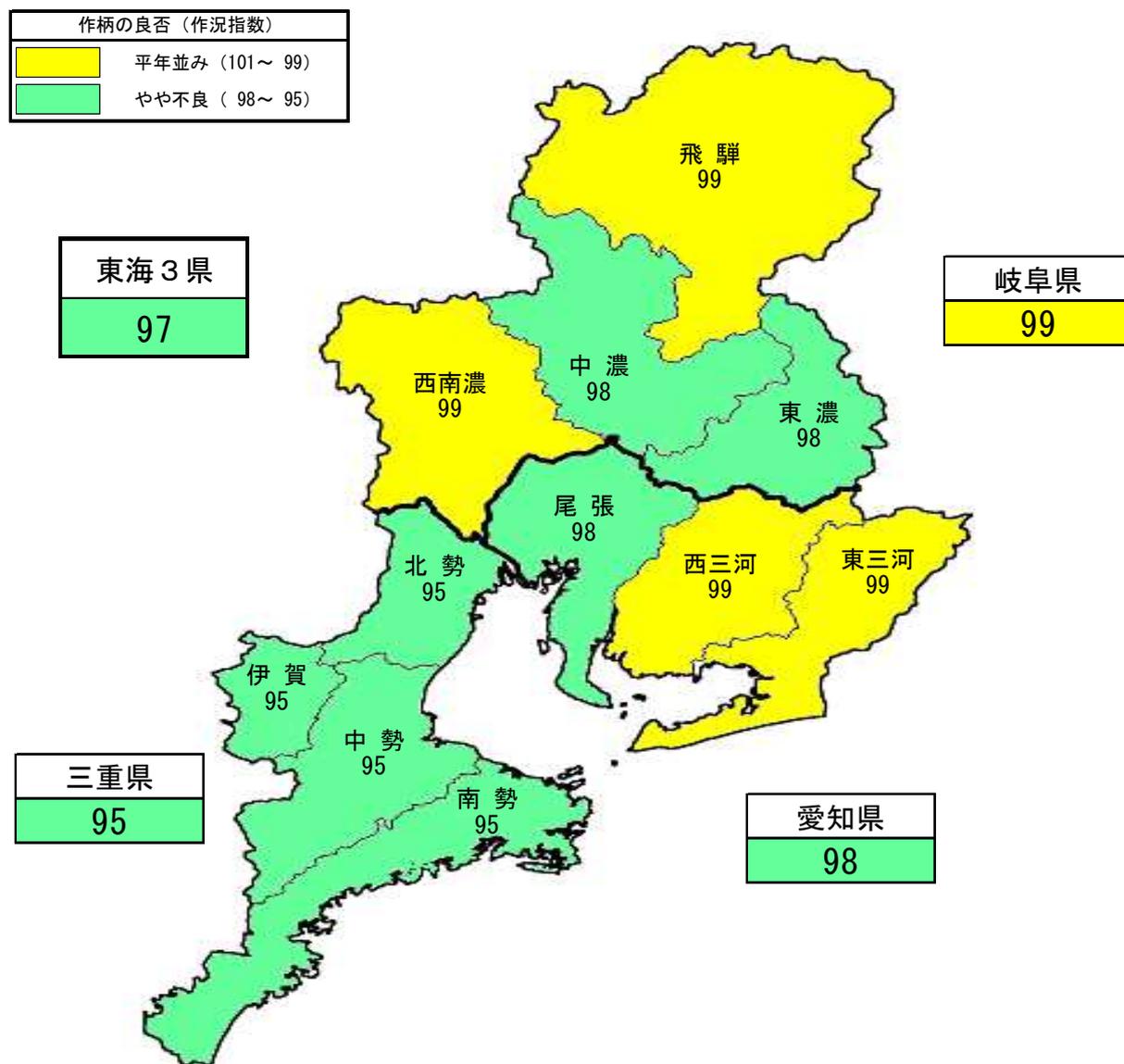
図1 県別・作柄表示地帯別10 a 当たり収量



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
なお、農家等が使用しているふるい目幅（東海は1.80mm）ベースの作況指数は2ページを参照。
- 東海3県は東海農政局が所管する地域（静岡県を含まない。）であり、全国農業地域における東海（静岡県を含む。）とは一致しない。

本資料は、東海農政局Webサイトの「農林水産統計」で御覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/tokai/tokei/kohyo/index.html> 】

図2 県別・作柄表示地帯別作況指数
【農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）ベース】



- 注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東海は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 2 東海3県は東海農政局が所管する地域（静岡県を含まない。）であり、全国農業地域における東海（静岡県を含む。）とは一致しない。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

1 水稻（子実用）の年次別推移

(1) 東海3県

年 産	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)	作 況 指 数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	86,800	481	417,400	86,000	414,000	96
22	86,900	492	427,400	85,800	421,900	99
23	85,200	495	421,700	84,400	417,700	99
24	84,800	504	427,100	83,800	421,600	101
25	85,300	511	435,700	83,300	425,900	102
26	82,900	493	408,700	80,900	398,300	99
27	78,900	492	388,200	77,000	378,800	99
28	77,500	511	396,300	75,600	386,500	102
29	76,700	494	379,200	74,900	369,700	99
30	77,600	493	382,500	75,300	371,200	98
令和元年産	77,400	486	375,900	75,000	364,100	97

資料：農林水産省統計部『作物統計』（以下(2)～(4)において同じ。)

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下(2)～(4)において同じ。）。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下(2)～(4)において同じ。）。

3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（以下(2)～(4)において同じ。）。

4 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東海は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下(2)～(4)において同じ。）。

(2) 岐阜県

年 産	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)	作 況 指 数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	24,700	460	113,600	24,700	113,600	94
22	24,900	475	118,300	24,700	117,300	97
23	24,600	485	119,300	24,500	118,800	99
24	24,600	492	121,000	24,400	120,000	101
25	24,700	495	122,300	24,300	120,300	101
26	24,100	482	116,200	23,500	113,300	99
27	22,500	481	108,200	22,100	106,300	99
28	22,200	486	107,900	21,700	105,500	100
29	21,900	488	106,900	21,500	104,900	100
30	22,500	478	107,600	21,500	102,800	97
令和元年産	22,500	482	108,500	21,400	103,100	99

(3) 愛知県

年 産	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)	作 況 指 数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	31,100	499	155,200	30,800	153,700	98
22	31,000	497	154,100	30,600	152,100	98
23	30,300	510	154,500	30,000	153,000	101
24	30,100	510	153,500	29,600	151,000	101
25	30,300	519	157,300	29,500	153,100	102
26	29,300	504	147,700	28,400	143,100	99
27	28,100	503	141,300	27,200	136,800	99
28	27,700	521	144,300	26,900	140,100	103
29	27,500	512	140,800	26,600	136,200	101
30	27,600	499	137,700	26,700	133,200	98
令和元年産	27,500	499	137,200	26,600	132,700	98

(4) 三重県

年 産	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)	作 況 指 数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	30,900	481	148,600	30,500	146,700	96
22	31,000	500	155,000	30,500	152,500	100
23	30,300	488	147,900	29,900	145,900	98
24	30,100	507	152,600	29,700	150,600	101
25	30,200	517	156,100	29,500	152,500	103
26	29,500	491	144,800	28,900	141,900	98
27	28,300	490	138,700	27,700	135,700	98
28	27,600	522	144,100	27,000	140,900	105
29	27,400	480	131,500	26,800	128,600	95
30	27,500	499	137,200	27,100	135,200	100
令和元年産	27,300	477	130,200	26,900	128,300	95

2 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（16ページ【参考1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考としてふるい目幅別の重量割合の数値並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の数値を示すと次のとおりである。

(1) ふるい目幅別重量分布状況の推移（東海3県）

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成26年産	100.0	0.9	1.5	2.1	2.6	14.0	78.9
27	100.0	0.8	1.2	1.7	2.3	12.4	81.6
28	100.0	0.8	1.2	1.4	1.9	11.0	83.7
29	100.0	0.9	1.3	2.1	2.3	13.2	80.2
30	100.0	0.8	1.4	2.1	2.4	12.5	80.8
令和元年産	100.0	0.8	1.3	2.1	2.6	12.7	80.5
平均値	100.0	0.8	1.3	1.9	2.3	12.6	81.1
対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	△ 0.6

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下(2)において同じ）。

(2) ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（東海3県）

年 産	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
		平成26年産	10a 当たり収量 収穫量（子実用）	kg t	493 408,700	489 405,000	481 398,900	471 390,300
27	10a 当たり収量 収穫量（子実用）	kg t	492 388,200	488 385,100	482 380,400	474 373,800	462 364,900	401 316,800
28	10a 当たり収量 収穫量（子実用）	kg t	511 396,300	507 393,100	501 388,400	494 382,800	484 375,300	428 331,700
29	10a 当たり収量 収穫量（子実用）	kg t	494 379,200	490 375,800	483 370,900	473 362,900	461 354,200	396 304,100
30	10a 当たり収量 収穫量（子実用）	kg t	493 382,500	489 379,400	482 374,100	472 366,100	460 356,900	398 309,100
令和元年産	10a 当たり収量 収穫量（子実用） 対前年比	kg t %	486 375,900 98	482 372,900 98	476 368,000 98	466 360,100 98	453 350,300 98	391 302,600 98

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、東海3県の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、東海3県の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

【調査結果】

- 令和元年産水稻の作付面積（子実用）は7万7,400haで、前年産に比べ200ha減少した。また、主食用作付面積は7万5,000haで、前年産に比べ300ha減少した（表1参照）。
- 水稻の県別の作柄については、以下のとおりである。
 岐阜県では、8月下旬の日照不足の影響により登熟が平年を下回ったことから、10a当たり収量は482kg（前年産に比べ4kg増加）となった。
 愛知県では、7月上旬から中旬の日照不足の影響により全もみ数が平年を下回り、8月下旬の日照不足の影響により登熟が平年を下回ったことから、10a当たり収量は499kg（前年産並み）となった。
 三重県では、台風第10号による倒伏及びその後の降雨等の影響により登熟が前年産を下回ったことから、10a当たり収量は477kg（前年産に比べ22kg減少）となった。

 この結果、東海3県の10a当たり収量は486kg（前年産に比べ7kg減少）となった。
 また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの東海3県の作況指数は97（岐阜県99、愛知県98、三重県95）となった（表1参照）。
- 以上の結果、東海3県の収穫量（子実用）は37万5,900t（前年産に比べ6,600t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、36万4,100t（前年産に比べ7,100t減少）となった（表1参照）。
- ふるい目幅別重量分布状況のうち、東海3県の1.80mm以上の玄米重量割合は97.9%となり、直近5か年平均値並みとなった（表2参照）。
- 玄米品位の状況は、東海3県では、整粒の割合が62.0%と、前年産に比べ0.8ポイント高くなった（表6参照）。

表1 令和元年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10a当たり収量		収穫量（子実用）			参 考		
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対差	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主 食 用 作付面積 ④	収 穫 量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
		対差	対比				対差	対比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
東 海 3 県	77,400	△ 200	100	486	△ 7	375,900	△ 6,600	98	75,000	364,100	97
岐 阜 県	22,500	0	100	482	4	108,500	900	101	21,400	103,100	99
愛 知 県	27,500	△ 100	100	499	0	137,200	△ 500	100	26,600	132,700	98
三 重 県	27,300	△ 200	99	477	△ 22	130,200	△ 7,000	95	26,900	128,300	95

- 注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
 3 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東海は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

表2 令和元年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東海3県 (1.80mm)	重量割合	100.0	0.8	1.3	2.1	2.6	12.7	80.5
	平均値	100.0	0.8	1.3	1.9	2.3	12.6	81.1
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	△ 0.6
岐 阜 県	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.7	2.1	10.8	83.5
	平均値	100.0	0.9	1.4	1.9	2.3	12.2	81.3
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 1.4	2.2
愛 知 県	重量割合	100.0	0.6	1.2	1.9	2.6	13.7	80.0
	平均値	100.0	0.7	1.1	1.6	2.2	12.3	82.1
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.1	0.3	0.4	1.4	△ 2.1
三 重 県	重量割合	100.0	1.0	1.6	2.5	3.0	13.3	78.6
	平均値	100.0	0.9	1.5	2.1	2.4	13.3	79.8
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.1	0.4	0.6	0.0	△ 1.2

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 東海3県の下に記載されている括弧内の数値は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅である（以下表3において同じ。）。

表3 令和元年産水稲玄米のふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）

区 分		単 位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
東海3県 (1.80mm)	10a当たり収量	kg	486	482	476	466	453	391
	収穫量（子実用）	t	375,900	372,900	368,000	360,100	350,300	302,600
岐 阜 県	10a当たり収量	kg	482	479	473	465	455	402
	収穫量（子実用）	t	108,500	107,700	106,400	104,600	102,300	90,600
愛 知 県	10a当たり収量	kg	499	496	490	481	468	399
	収穫量（子実用）	t	137,200	136,400	134,700	132,100	128,600	109,800
三 重 県	10a当たり収量	kg	477	472	465	453	438	375
	収穫量（子実用）	t	130,200	128,900	126,800	123,600	119,700	102,300

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、東海3県又は県別の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、東海3県又は県別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表4 水稲における農家等が使用したふるい目幅の分布

【令和元年産水稲作況標本（基準）筆農家からの聞き取り結果】

単位：％

区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東海3県	100.0	0.5	1.0	23.5	60.5	14.2	0.3

注：農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稲作況標本（基準）筆農家が使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

表5 令和元年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況（東海3県）

単位：%

区 分	計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
筆数割合	100.0	0.5	0.5	1.4	9.3	35.7	43.5	8.8	0.3	-
前年値	100.0	0.2	0.3	2.1	8.3	35.2	41.5	11.8	0.6	-
対前年差(ポイント)	0.0	0.3	0.2	△ 0.7	1.0	0.5	2.0	△ 3.0	△ 0.3	-

注：10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

図3 令和元年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況（東海3県）

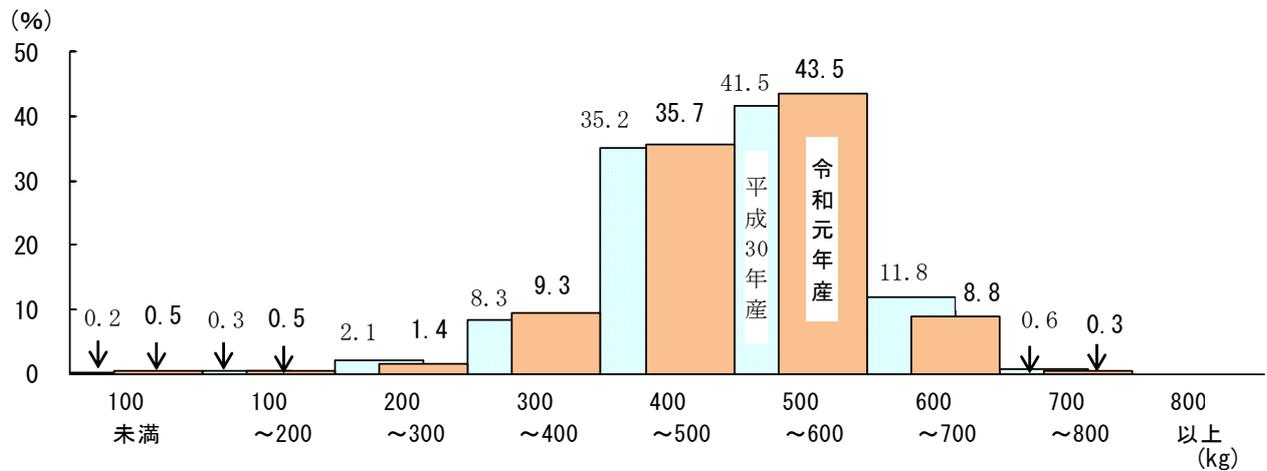


表6 令和元年産水稻の玄米品位の状況（東海3県）

単位：%

区 分	整 粒	未 熟 粒		被 害 粒	
		乳白粒・腹白粒	死米・着色粒	乳白粒・腹白粒	死米・着色粒
重量割合	62.0	31.3	5.9	6.7	1.5
前年値	61.2	32.9	6.7	5.9	1.5
対前年差(ポイント)	0.8	△ 1.6	△ 0.8	0.8	0.0

注：作況基準筆等の刈取試料を穀粒判別器を用いて品位分析したものである。

【統計表】

統計表一覧

ページ

1	令和元年産水稲の作付面積及び収穫量	10
2	令和元年産水稲の収量構成要素（水稲作況標本筆調査成績）	11
3	令和元年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況	12
4	令和元年産水稲玄米のふるい目幅別10 a 当たり収量	13
5	令和元年産水稲玄米のふるい目幅別収穫量（子実用）	13
6	水稲における農家等が使用したふるい目幅の分布	14
7	令和元年産水稲の作況標本筆の10 a 当たり玄米重の分布状況	14
8	令和元年産水稲の玄米品位の状況（東海3県）	14
9	令和元年産水稲の被害面積及び被害量（東海3県）	14

利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数	6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例				
四捨五入する前 (原数)	123,456	12,345	1,234	123
四捨五入した数値 (統計数値)	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
- 「0」：単位に満たないもの（例：0.4ha→0ha）
 - 「0.0」：増減がないもの
 - 「－」：事実のないもの
 - 「△」：負数又は減少したもの
- 3 この統計表に掲載された数値等を他に転載する場合は、「令和元年産水稲の収穫量」（東海農政局）による旨を記載してください。

1 令和元年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10 a 当たり 収 量	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅 (1.80mm) で選別		
	実 数	前年産との比較			10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況指数
		①	対 差				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
東海3県	77,400	△ 200	100	486	476	489	97
岐阜県	22,500	0	100	482	473	478	99
西南濃	12,300	0	100	464	453	456	99
中濃	4,220	△ 90	98	487	480	490	98
東濃	3,220	30	101	509	502	513	98
飛騨	2,770	30	101	524	516	521	99
愛知県	27,500	△ 100	100	499	490	499	98
尾張	13,400	△ 100	99	492	484	495	98
西三河	9,360	0	100	510	500	507	99
東三河	4,750	△ 20	100	495	487	493	99
三重県	27,300	△ 200	99	477	465	489	95
北勢	8,830	△ 50	99	469	454	477	95
中勢	9,740	△ 20	100	475	462	488	95
南勢	4,250	△ 20	100	476	465	489	95
伊賀	4,520	△ 30	99	496	487	514	95

区 分	収 穫 量（子実用）			参 考	
	実 数	前年産との比較		主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)
		⑥=①×②	対 差		
	t	t	%	ha	t
東海3県	375,900	△ 6,600	98	75,000	364,100
岐阜県	108,500	900	101	21,400	103,100
西南濃	57,100	900	102
中濃	20,600	△ 400	98
東濃	16,400	100	101
飛騨	14,500	200	101
愛知県	137,200	△ 500	100	26,600	132,700
尾張	65,900	△ 700	99
西三河	47,700	200	100
東三河	23,500	△ 200	99
三重県	130,200	△ 7,000	95	26,900	128,300
北勢	41,400	△ 2,000	95
中勢	46,300	△ 2,400	95
南勢	20,200	△ 1,000	95
伊賀	22,400	△ 1,200	95

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
4 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の③10 a 当たり収量、④10 a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東海は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 令和元年産水稻の収量構成要素（水稻作況標本筆調査成績）

区 分	1 m ² 当たり株数		1 株当たり有効穂数		1 m ² 当たり有効穂数		1 穂当たりもみ数		1 m ² 当たり全もみ数		千もみ当たり収量	
	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比
	株	%	本	%	本	%	粒	%	百粒	%	g	%
東 海 3 県	15.9	95	22.7	101	361	97	76.2	102	275	98	17.9	98
岐 阜 県	15.7	96	22.5	102	353	98	75.4	101	266	100	18.5	99
愛 知 県	17.1	99	22.0	99	376	98	75.0	101	282	99	18.1	99
三 重 県	16.0	98	22.9	100	367	97	76.8	102	282	99	17.5	98

区 分	粗玄米粒数歩合		玄米粒数歩合		玄米千粒重		10 a 当たり粗玄米重		玄米重歩合		10 a 当たり玄米重	
	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比	本 年	対平 年比
	%	%	%	%	g	%	kg	%	%	%	kg	%
東 海 3 県	86.5	100	95.8	100	21.6	98	503	97	97.8	100	492	97
岐 阜 県	85.0	100	96.9	101	22.4	98	500	98	98.2	100	491	99
愛 知 県	85.1	99	96.7	101	22.0	100	519	98	98.3	100	510	98
三 重 県	87.6	100	95.1	99	21.0	98	506	97	97.4	100	493	97

注：1 対平年比とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1 m²当たり株数等）の平年値との対比である。

2 千もみ当たり収量、玄米千粒重及び10 a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 令和元年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

区 分	ふるい目幅別重量分布状況						
	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
	%	%	%	%	%	%	%
東 海 3 県	100.0	0.8	1.3	2.1	2.6	12.7	80.5
岐 阜 県	100.0	0.7	1.2	1.7	2.1	10.8	83.5
西 南 濃	100.0	0.9	1.5	2.0	2.5	12.5	80.6
中 濃	100.0	0.5	0.9	1.3	1.4	8.5	87.4
東 濃	100.0	0.5	0.8	1.1	1.3	8.3	88.0
飛 騨	100.0	0.7	0.9	2.0	2.4	10.3	83.7
愛 知 県	100.0	0.6	1.2	1.9	2.6	13.7	80.0
尾 張	100.0	0.6	1.1	1.9	2.5	12.7	81.2
西 三 河	100.0	0.7	1.3	1.9	2.6	13.9	79.6
東 三 河	100.0	0.6	1.1	1.9	2.8	16.0	77.6
三 重 県	100.0	1.0	1.6	2.5	3.0	13.3	78.6
北 勢	100.0	1.2	1.9	2.5	3.0	13.1	78.3
中 勢	100.0	1.1	1.7	2.8	3.5	15.1	75.8
南 勢	100.0	0.9	1.4	1.9	2.1	12.8	80.9
伊 賀	100.0	0.7	1.2	2.3	2.5	10.5	82.8

区 分	対平均差						
	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント
東 海 3 県	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	△ 0.6
岐 阜 県	0.0	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 1.4	2.2
西 南 濃	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.1	△ 1.0	1.5
中 濃	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.5	△ 2.3	3.6
東 濃	0.0	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.4	△ 1.5	2.7
飛 騨	0.0	△ 0.1	△ 0.2	0.1	0.3	△ 1.6	1.5
愛 知 県	0.0	△ 0.1	0.1	0.3	0.4	1.4	△ 2.1
尾 張	0.0	△ 0.1	0.1	0.4	0.5	1.8	△ 2.7
西 三 河	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.6	△ 1.0
東 三 河	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.2	0.5	1.9	△ 2.4
三 重 県	0.0	0.1	0.1	0.4	0.6	0.0	△ 1.2
北 勢	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	△ 0.5	△ 0.3
中 勢	0.0	0.1	0.1	0.5	0.8	0.4	△ 1.9
南 勢	0.0	0.3	0.3	0.2	0.1	0.3	△ 1.2
伊 賀	0.0	0.0	△ 0.1	0.6	0.6	0.1	△ 1.2

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下4～5において同じ。）。

4 令和元年産水稻玄米のふるい目幅別10a 当たり収量

単位：kg

区 分	ふるい目幅別					
	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
東 海 3 県	486	482	476	466	453	391
岐 阜 県	482	479	473	465	455	402
西 南 濃	464	460	453	444	432	374
中 濃	487	485	480	474	467	426
東 濃	509	506	502	497	490	448
飛 騨	524	520	516	505	493	439
愛 知 県	499	496	490	481	468	399
尾 張	492	489	484	474	462	400
西 三 河	510	506	500	490	477	406
東 三 河	495	492	487	477	463	384
三 重 県	477	472	465	453	438	375
北 勢	469	463	454	443	429	367
中 勢	475	470	462	448	432	360
南 勢	476	472	465	456	446	385
伊 賀	496	493	487	475	463	411

注： ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、県及び作柄表示地帯別の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

5 令和元年産水稻玄米のふるい目幅別収穫量（子実用）

単位：t

区 分	ふるい目幅別					
	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
東 海 3 県	375,900	372,900	368,000	360,100	350,300	302,600
岐 阜 県	108,500	107,700	106,400	104,600	102,300	90,600
西 南 濃	57,100	56,600	55,700	54,600	53,200	46,000
中 濃	20,600	20,500	20,300	20,000	19,800	18,000
東 濃	16,400	16,300	16,200	16,000	15,800	14,400
飛 騨	14,500	14,400	14,300	14,000	13,600	12,100
愛 知 県	137,200	136,400	134,700	132,100	128,600	109,800
尾 張	65,900	65,500	64,800	63,500	61,900	53,500
西 三 河	47,700	47,400	46,700	45,800	44,600	38,000
東 三 河	23,500	23,400	23,100	22,700	22,000	18,200
三 重 県	130,200	128,900	126,800	123,600	119,700	102,300
北 勢	41,400	40,900	40,100	39,100	37,800	32,400
中 勢	46,300	45,800	45,000	43,700	42,100	35,100
南 勢	20,200	20,000	19,700	19,400	18,900	16,300
伊 賀	22,400	22,200	22,000	21,500	20,900	18,500

注： ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、県及び作柄表示地帯別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

6 水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布

【令和元年産水稻作況標本（基準）筆農家からの聞き取り結果】

単位：％

区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東 海 3 県	100.0	0.5	1.0	23.5	60.5	14.2	0.3
岐 阜 県	100.0	-	2.5	49.6	44.2	2.5	1.2
愛 知 県	100.0	-	-	4.1	62.1	33.8	-
三 重 県	100.0	1.3	0.9	23.8	70.2	3.8	-

注：農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本（基準）筆農家を使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

7 令和元年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況

単位：％

区 分	計	100kg 未 満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以 上
東 海 3 県	100.0	0.5	0.5	1.4	9.3	35.7	43.5	8.8	0.3	-
岐 阜 県	100.0	-	1.6	0.5	8.1	38.9	41.2	8.6	1.1	-
愛 知 県	100.0	-	-	0.5	6.2	36.2	48.5	8.6	-	-
三 重 県	100.0	1.3	-	3.0	13.0	32.6	41.0	9.1	-	-

注：10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

8 令和元年産水稻の玄米品位の状況（東海3県）

単位：％

区 分	整 粒	未 熟 粒	乳白粒・腹白粒		被 害 粒	死米・着色粒
重量割合	62.0	31.3	5.9		6.7	1.5
前年値	61.2	32.9	6.7		5.9	1.5
対前年差 (ポイント)	0.8	△ 1.6	△ 0.8		0.8	0.0

注：1 作況基準筆等の刈取試料を穀粒判別器を用いて品位分析したものである。

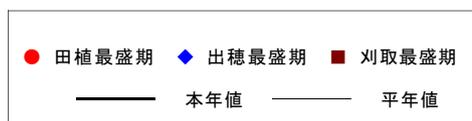
2 当該品位分析は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東海は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

9 令和元年産水稻の被害面積及び被害量（東海3県）

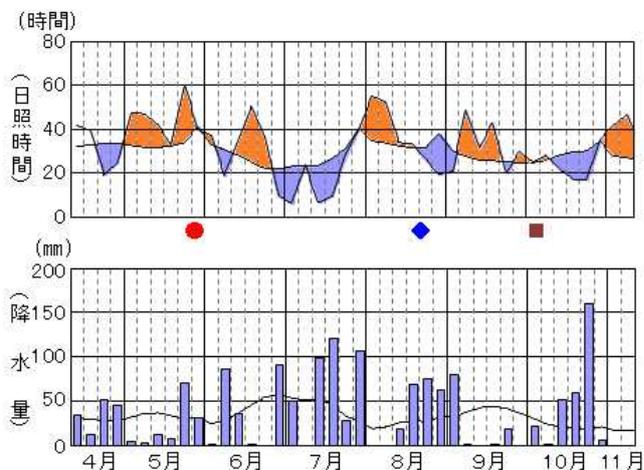
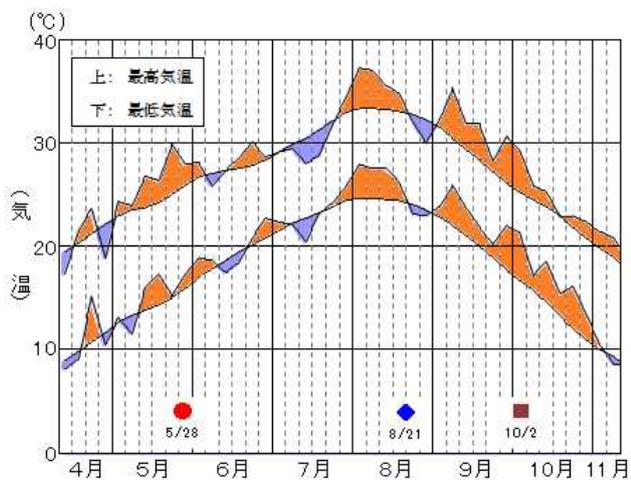
被害種類	被 害 面 積	被 害 量	被 害 率	
			実 数	対 前 年 差
	ha	t	％	ポ イ ント
冷 害	-	-	-	-
日 照 不 足	58,800	10,200	2.6	1.2
高 温 障 害	15,600	1,670	0.4	△ 1.9
い も ち 病	18,700	4,400	1.1	0.0
ウ ン カ	3,580	470	0.1	0.0
カ メ ム シ	12,800	1,820	0.5	0.1

注：被害は表中の6種類に限定し把握している。

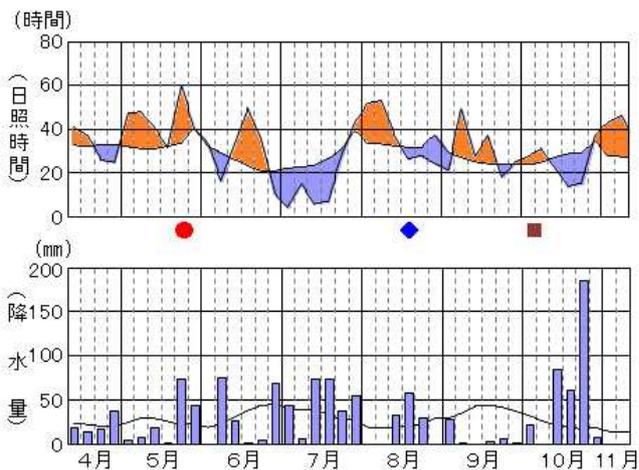
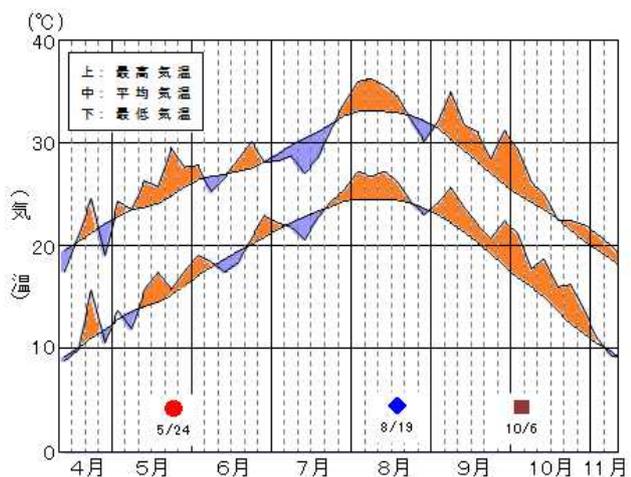
◎ 関連データ



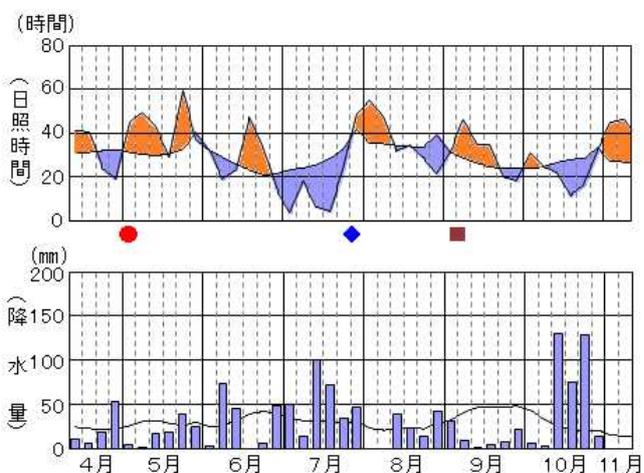
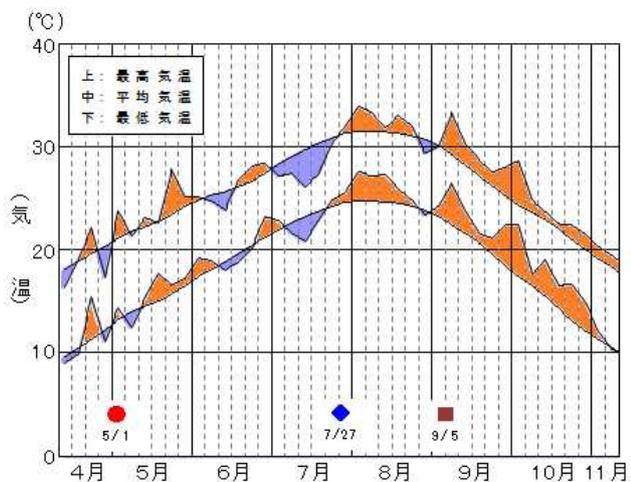
岐阜県の気象（岐阜地方气象台）



愛知県の気象（名古屋地方气象台）



三重県の気象（津地方气象台）

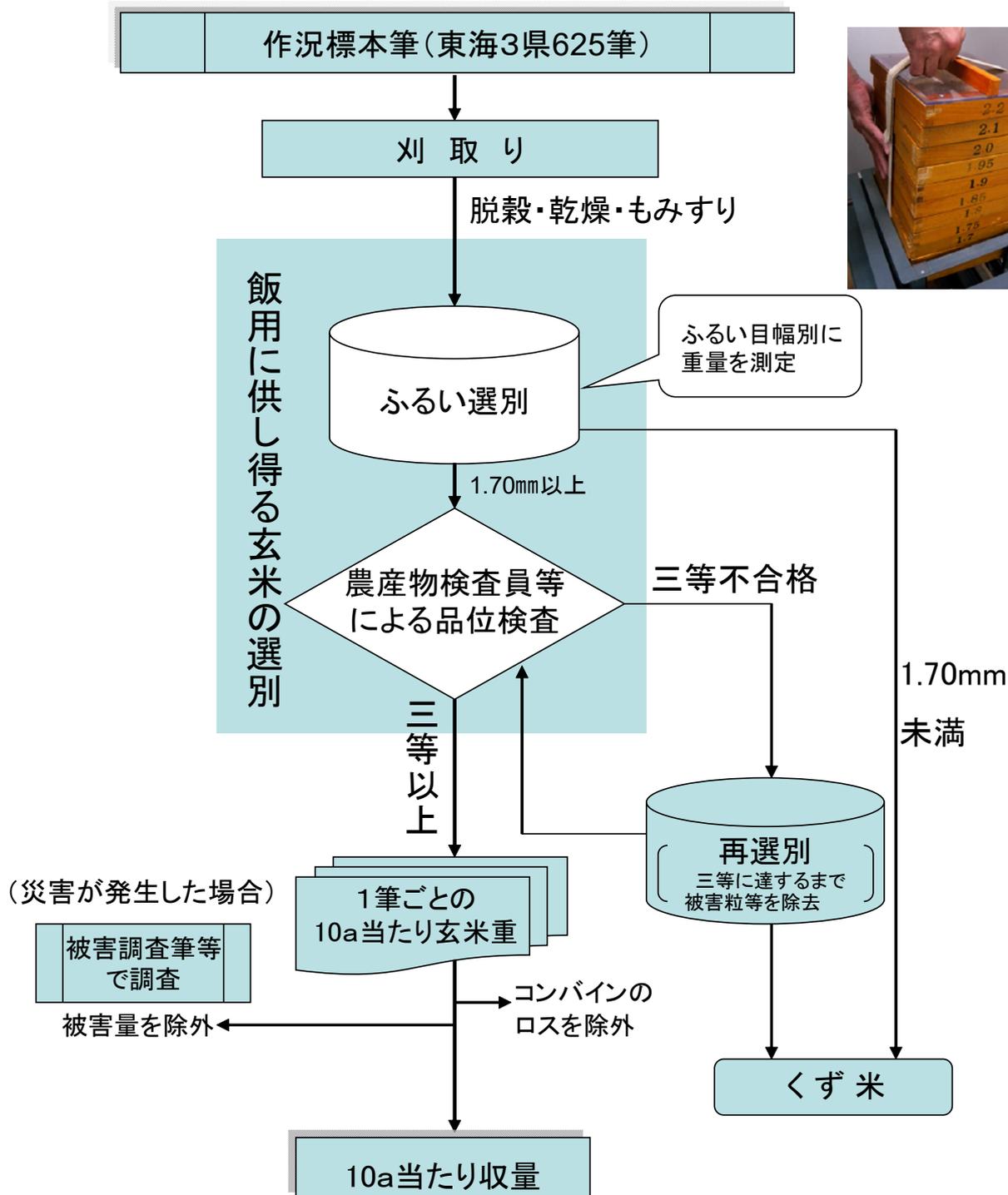


資料：気象庁「アメダスデータ」

【参考1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考2】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

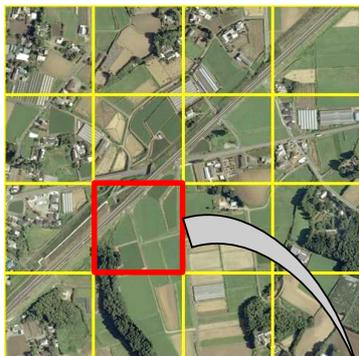


【参考2】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場^{ふで}を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し（東海3県で625筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



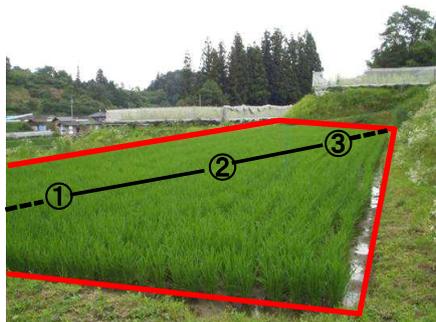
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（東海3県で625筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量等を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

- ア 作付面積調査
全国の区域
- イ 収穫量調査
全国の区域

(2) 調査対象の選定

- ア 作付面積調査
水稻の栽培に供された全ての耕地
- イ 収穫量調査
水稻が栽培されている耕地

3 調査対象数（東海3県）

(1) 作付面積調査

標本単位区：2,535単位区

(2) 収穫量調査

作況標本筆：625筆 作況基準筆：32筆

4 調査事項

水稻の作付面積、生育状況、登熟状況、10a当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種条件等

5 調査期日

(1) 作付面積調査：令和元年7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

6 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団（全国約290万単位区）としている。

単位区は、区画内に存する耕地の筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）について、面積調査用の地理情報システムにより、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、

単位区の情報に補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、そのそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の水稲作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稲が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに作付けの状況及びその範囲を確認する。

オ 推定

面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況水稲作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乘じることにより、全体の面積を推定している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稲作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 収穫量調査

ア 母集団

(1)のイにより、田のみ階層及び田畑混在階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、水稲の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別に配分された標本数を階層別に比例配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法（具体的には単位区を水稲作付面積（田台帳面積）の小さい方から順に並べ、田台帳面積の合計を標本数で除した値の整数倍の値を含む単位区を選ぶ方法）により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とする。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、

穂数、もみ数等の実測調査を行う。

オ 10 a 当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数（1 m²分×3か所の株数）の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの）となるように選別し、10 a 当たり玄米重を決定する。

カ 10 a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10 a 当たり玄米重を基に、都道府県別の10 a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10 a 当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆（10 a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10 a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

7 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。

(2) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（全国農業地域の表章区分及び目幅は次表のとおり）。

全国農業地域名	所属都道府県名	農家等使用目幅
北海道	北海道	1.85mm
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関東・東海	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
東海	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
四国	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
沖縄	沖縄	1.75mm

(3) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

- (4) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量から減収した面積をいう。
- (5) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量より減収した量をいう。
- (6) 「被害率」とは、平年収量（作付面積×10 a 当たり平年収量）に対する被害量の比率をいう。

8 作柄表示地帯

水稻の作柄を表す区域として、各都道府県の地域を地形、気象及び栽培品種等により分割したものである。

なお、東海3県の各作柄表示地帯の包括範囲は、下表のとおりである。

区分	地帯名	包 括 市 町 村
岐阜県	西南濃	岐阜市、大垣市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、海津市、岐南町、笠松町、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町
	中濃	関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町
	東濃 飛驒	多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市 高山市、飛驒市、下呂市、白川村
愛知県	尾張	名古屋市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、津島市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、東海市、大府市、知多市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
	西三河	岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町
	東三河	豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村
三重県	北勢	四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
	中勢 南勢	津市、松阪市、多気町、明和町、大台町 伊勢市、尾鷲市、鳥羽市、熊野市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町
	伊賀	名張市、伊賀市

9 その他

この資料の確定した詳細な数値は、農林水産省Webサイトに掲載（令和2年2月予定）するとともに、その後刊行する『東海農林水産統計年報』に掲載する。

なお、公表した数値の正誤情報は、農林水産省Webサイトでお知らせする。

【Webサイト掲載案内】

○ この統計調査結果は、東海農政局Webサイトの「農林水産統計」で御覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/tokai/tokei/kohyo/index.html> 】

○ 全国値の詳細は、農林水産省Webサイトの「統計情報」で御覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は、「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y5 】

【関連リンク】

○ 農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官
【 http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/ 】

お問合せ先

◎本統計調査結果について

東海農政局 統計部 生産流通消費統計課

電 話：052-763-4732

F A X：052-763-4709

◎農林水産統計全般について

東海農政局 統計部 統計企画課

電 話：052-763-4730

F A X：052-763-4709



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<http://www.e-stat.go.jp/>



令和2年2月1日現在で、2020年農林業センサスを実施します。

○農林業経営体調査（令和元年12月中旬～令和2年2月末）

○農山村地域調査（令和元年12月上旬～令和2年2月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。